

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員一 人あたりの 在籍学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数			
PT 昼	人	人	人	人	人	6 人	5 人	人	人	20.4 人
OT 昼						6 人	5 人			9.8 人
PT 夜						6 人	4 人			5 人
OT 夜						6 人	4 人			2.5 人
計	人	人	人	人	人	24 人	18 人	人	人	—

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/> PT夜	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
<input type="radio"/> PT昼・OT夜	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
<input type="radio"/> OT昼	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

①理学療法学科昼間部

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤、人間 と生活社会の理解	心理学	15	新井田 光希	兼任
		物理学	15	小岩 正敏	兼任
		社会福祉学	15	宮越 美佳	兼任
		生物学	15	守屋 開	兼任
		情報科学	15	山縣 豊樹	兼任
		英語	15	堀 琴美	兼任
		保健体育	15	廣田 邦生	兼任
専門基礎	人体の構造機能及び心身 の発達	解剖学	30	中嶋 俊雄	兼任
		機能解剖学Ⅰ	15	本間 伸晴	専任
		機能解剖学Ⅱ	30	鈴木 由紀子	専任
		生理学	30	中嶋 俊雄	兼任
		生理学演習	30	中嶋 俊雄	兼任
		人間発達学	15	榎 洋一	兼任
		運動学	15	鈴木 由紀子	専任
		運動学演習	30	西田 万里	専任
		一般臨床医学	15	池上 和洋	兼任
		病理学概論	15	山野 茂	兼任

	疾病と障害の成立及び回復過程の促進	内科学	15	池上 和洋	兼任
		神経内科学	15	五十嵐 洋介	兼任
		整形外科	15	今井 智仁	兼任
		精神医学	15	五十嵐 洋介	兼任
		臨床心理学	15	堀 琴美	兼任
		小児科学	15	池上 和洋	兼任
		画像診断学	15	箕輪 和行	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学概論	15	中嶋 俊雄	兼任
		理学療法概論Ⅰ	15	鈴木 由紀子	専任
	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅱ	15	鈴木 由紀子	専任
		臨床運動学	30	西田 万里	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	山内 智恵	専任
	理学療法評価学	理学療法評価学	15	伊藤 昇平	専任
理学療法評価学演習Ⅰ		30	伊藤 昇平	専任	
理学療法評価学演習Ⅱ		30	伊藤 昇平	専任	
理学療法治療学	運動療法学	15	本間 伸晴	専任	
	運動療法学演習	30	本間 伸晴	専任	
	日常生活活動学	15	本間 伸晴	専任	
	日常生活活動学演習	30	本間 伸晴	専任	
	義肢装具学	15	鈴木 由紀子	専任	
	義肢装具学演習	15	鈴木 由紀子	専任	
	物理療法学	15	山内 智恵	専任	
	物理療法学演習	30	鈴木 由紀子	専任	
	筋骨格系理学療法学	15	本間 伸晴	専任	
	筋骨格系理学療法学演習	15	本間 伸晴	専任	
	中枢神経障害系理学療法学	15	伊藤 昇平	専任	
	中枢神経障害系理学療法学演習	15	伊藤 昇平	専任	
専門					

理学療法治療学	内部障害系理学療法学	15	本間 伸晴	専任	
	内部障害系理学療法学演習	15	本間 伸晴	専任	
	発達障害系理学療法学	15	西田 万里	専任	
	神経筋障害系理学療法学	15	本間 伸晴	専任	
	理学療法技術論	15	西田 万里	専任	
	理学療法技術論演習	30	西田 万里	専任	
	理学療法研究法演習Ⅰ	15	本間 伸晴	専任	
	理学療法研究法演習Ⅱ	15	伊藤 昇平	専任	
	医療面接演習	30	伊藤 昇平	専任	
	臨床理学療法学Ⅰ	30	伊藤 昇平	専任	
	臨床理学療法学Ⅱ	30	山内 智恵	専任	
	臨床理学療法学Ⅲ	30	西田 万里	専任	
	地域理学療法学	地域理学療法学	15	伊藤 昇平	専任
		地域理学療法学演習	15	伊藤 昇平	専任
	臨床実習	見学実習	45	鈴木 由紀子	専任
評価実習		135	伊藤 昇平	専任	
総合臨床実習Ⅰ		360	西田 万里	専任	
総合臨床実習Ⅱ		360	西田 万里	専任	

②作業療法学科昼間部

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基礎	科学的思考の基盤、人間	心理学	15	渡辺 舞	兼任

	と生活社会の理解	物理学	15	小岩 正敏	兼任
		社会福祉学	15	宮越 美香	兼任
		生物学	15	守屋 開	兼任
		情報科学	15	高橋 文代	兼任
		英語	15	堀 琴美	兼任
		人間関係論	3	中村 舞	兼任
			3	田中 みどり	兼任
			9	高橋 真紀	専任
		専門基礎	人体の構造機能及び心身の発達	解剖学	15
解剖学演習	30			中嶋 俊雄	兼任
人体機能演習 I	15			谷 紅	専任
人体機能演習 II	15			谷 紅	専任
生理学	15			福島 和昭	兼任
生理学演習	30			中嶋 俊雄	兼任
人間発達学	15			模 洋一	兼任
運動学	15			谷口 賢一	専任
運動学演習	14			谷口 賢一	専任
	4		高橋 真紀	専任	
	4		福岡 幹彦	専任	
	8		白田 典正	専任	
疾病と障害の成立及び回復過程の促進	一般臨床医学		15	池上 和洋	兼任
	病理学概論		15	山野 茂	兼任
	内科学		15	池上 和洋	兼任
	神経内科学		15	池上 和洋	兼任
	整形外科学		15	河村 秀朗	兼任
	精神医学		15	五十嵐 洋介	兼任
	臨床心理学		15	堀 琴美	兼任
	小児科学		15	池上 和洋	兼任
	画像診断学	15	箕輪 和行	兼任	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学概論 I	15	中嶋 俊雄	兼任	
	リハビリテーション医学	12	白田 典正	専任	

		概論Ⅱ	2	福岡 幹彦	専任	
			1	谷口 賢一	専任	
専門	基礎作業療法学	作業療法概論	15	高橋 真紀	専任	
		作業療法基礎技能演習	4	白田 典正	専任	
			4	谷 紅	専任	
			2	高橋 真紀	専任	
			2	福岡 幹彦	専任	
			3	谷口 賢一	専任	
		基礎作業療法学	15	高橋 真紀	専任	
	基礎作業療法学演習	30	高橋 真紀	専任		
	作業療法管理学	作業療法管理学	9	谷口 賢一	専任	
			6	谷 紅	専任	
	作業療法評価学	基礎作業療法評価学	15	白田 典正	専任	
			基礎作業療法評価学演習Ⅰ	30	白田 典正	専任
		基礎作業療法評価学演習Ⅰ	15	白田 典正	専任	
		疾患別作業療法評価学	7	福岡 幹彦	専任	
			4	白田 典正	専任	
			4	谷口 賢一	専任	
		疾患別作業療法評価学演習Ⅰ	7	福岡 幹彦	専任	
			4	白田 典正	専任	
			4	谷口 賢一	専任	
		疾患別作業療法評価学演習Ⅱ	18	福岡 幹彦	専任	
			8	白田 典正	専任	
			4	谷 紅	専任	
	作業療法治療学	日常生活活動学	6	福岡 幹彦	専任	
			5	白田 典正	専任	
			4	高橋 真紀	専任	
			日常生活活動学演習	8	福岡 幹彦	専任
			8	白田 典正	専任	
6			高橋 真紀	専任		
8			谷口 賢一	専任		

		義肢装具学	15	谷 紅	専任
		義肢装具学演習	15	谷 紅	専任
		身体機能作業療法治療学	6	福岡 幹彦	専任
			5	白田 典正	専任
			4	谷口 賢一	専任
		身体機能作業療法治療学 演習 I	6	福岡 幹彦	専任
			5	白田 典正	専任
			4	谷口 賢一	専任
		身体機能作業療法治療学 演習 II	18	福岡 幹彦	専任
			12	白田 典正	専任
			5	谷口 賢一	専任
			6	谷 紅	専任
		精神障害作業療法治療学	15	谷口 賢一	専任
		精神障害作業療法治療学演習	30	谷口 賢一	専任
		発達障害作業療法治療学	8	福岡 幹彦	専任
		発達障害作業療法治療学演習	30	福岡 幹彦	専任
		老年期障害作業療法治療学	9	高橋 真紀	専任
			6	谷口 賢一	専任
		老年期障害作業療法治療学 演習	20	高橋 真紀	専任
			10	谷口 賢一	専任
		作業療法研究	8	白田 典正	専任
		作業療法研究演習	15	白田 典正	専任
		臨床作業療法学	30	高橋 真紀	専任
	地域作業療法学	地域作業療法学	15	谷口 賢一	専任
		地域作業療法学演習 I	30	高橋 真紀	専任
		地域作業療法学演習 II	15	谷口 賢一	専任
	臨床実習	見学実習	45	白田 典正	専任
		地域体験実習	45	谷口 賢一	専任
		評価実習	135	谷口 賢一	専任
		総合臨床実習 I	360	高橋 真紀	専任
		総合臨床実習 II	360	高橋 真紀	専任

③理学療法学科夜間部

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当 コマ 数	担当教員		
				氏名	職名 (専任・兼 任)	
専門基礎	疾病と障害の成立及び回復過程の促進	基礎理学療法 学演習	30	竹内 達也	専任	
専門	理学療法管理学	理学療法管理 学	15	熊谷 大嗣	専任	
	理学療法評価学	理学療法評価 学演習Ⅲ	30	佐々木 康大	専任	
	理学療法治療学	運動療法学演習	運動療法学演 習	30	佐々木 康大	専任
		日常生活活動学	日常生活活動 学	15	竹内 達也	専任
		日常生活活動学演習	日常生活活動 学演習	30	竹内 達也	専任
		義肢装具学	義肢装具学	15	熊谷 大嗣	専任
		義肢装具学演習	義肢装具学演 習	15	熊谷 大嗣	専任
		筋骨格系理学療法	筋骨格系理学 療法学	15	熊谷 大嗣	専任
		中枢神経障害系理学療法学	中枢神経障害 系理学療法学	15	佐々木 康大	専任
		中枢神経障害系理学療法学演習	中枢神経障害 系理学療法学 演習	15	佐々木 康大	専任
		内部障害系理学療法学	内部障害系理 学療法学	15	竹内 達也	専任
		内部障害系理学療法学演習	内部障害系理 学療法学演習	15	竹内 達也	専任
		発達障害系理学療法学	発達障害系理 学療法学	15	竹内 達也	専任
		神経筋障害系理学療法学	神経筋障害系 理学療法学	15	熊谷 大嗣	専任
		理学療法技術論演習	理学療法技術 論演習	30	佐々木 康大	専任
		病態理学療法学演習	病態理学療法 学演習	15	熊谷 大嗣	専任
		理学療法研究法演習	理学療法研究 法演習	15	佐々木 康大	専任
		臨床理学療法学演習Ⅰ	臨床理学療法 学演習Ⅰ	30	熊谷 大嗣	専任
		臨床理学療法学演習Ⅱ	臨床理学療法 学演習Ⅱ	30	熊谷 大嗣	専任
		臨床理学療法学演習Ⅲ	臨床理学療法 学演習Ⅲ	30	竹内 達也	専任
地域理学療法学	地域理学療法 学演習	15	佐々木 康大	専任		

臨床実習	評価実習	-	佐々木 康大	専任
	総合臨床実習 I	-	佐々木 康大	専任
	総合臨床実習 II	-	佐々木 康大	専任

④作業療法学科夜間部

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則教 育内容	相当授業科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
専門	作業療法治療学	臨床作業療法学Ⅱ	6	高尾人史	専任
			8	田中孝博	専任
			8	木谷優矢	専任
			8	相馬祐紀	専任
		臨床作業療法学Ⅲ	16	高尾人史	専任
			18	田中孝博	専任
			22	木谷優矢	専任
			24	相馬祐紀	専任
		作業療法研究法演習	20	高尾人史	専任
			22	田中孝博	専任
			20	木谷優矢	専任
			18	相馬祐紀	専任
		作業療法特論Ⅰ	4	高尾人史	専任
			2	田中孝博	専任
			2	相馬祐紀	専任
		作業療法特論Ⅱ	4	高尾人史	専任
			2	田中孝博	専任
			6	木谷優矢	専任
			3	相馬祐紀	専任
		作業療法特論Ⅲ	4	高尾人史	専任
			4	田中孝博	専任
			4	木谷優矢	専任

			3	相馬祐紀	専任
	臨床実習	総合臨床実習Ⅱ	—	相馬祐紀	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

①理学療法学科昼間部

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療及び福祉施設で勤務するの理学療法士の仕事を見学	1年後期	理学療法概論Ⅱ	1年後期
理学療法評価の実践	2年前期	理学療法評価学	2年前期
		理学療法評価学習Ⅰ・Ⅱ	
利用者さまとのコミュニケーションの実践	2年後期	医療面接演習	2年後期
臨床推論①（症例検討）	2年後期	臨床理学療法学演習Ⅰ	2年後期
臨床推論②（治療計画と実践）	3年前期	臨床理学療法学演習Ⅱ	3年前期

②作業療法学科昼間部

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療機関・福祉施設での作業療法場面の見学	1年後期	作業療法管理学、基礎作業療法学	1年後期
通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション場面の見学	2年前期	地域作業療法学	2年前期
症例の評価・プログラム立案	2年後期	基礎作業療法評価学 基礎作業療法評価学演習Ⅰ 基礎作業療法評価学演習Ⅱ 疾患別作業療法評価学 疾患別作業療法評価学演習Ⅰ 疾患別作業療法評価学演習Ⅱ 他	2年前期 2年後期
作業療法の実践場面の体験	3年前期	日常生活活動学 日常生活活動学演習 義肢装具学 義肢装具学演習 身体機能作業療法治療学 身体機能作業療法治療学演習Ⅰ 身体機能作業療法治療学演習Ⅱ	2年前期 2年後期
作業療法の実践場面の体験	3年後期	精神障害作業療法治療学 精神障害作業療法治療学演習 発達障害作業療法治療学 発達障害作業療法治療学演習 老年期障害作業療法治療学 他	2年前期 2年後期

③理学療法学科夜間部

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
評価実習 対象者への評価の体験	3年後期	理学療法評価学	2年前期
		理学療法評価学演習Ⅰ	2年通年
		理学療法評価学演習Ⅱ	2年通年
		理学療法評価学演習Ⅲ	3年後期
総合臨床実習Ⅰ	4年前期	臨床理学療法学演習Ⅰ	4年前期
総合臨床実習Ⅱ	4年後期	臨床理学療法学演習Ⅱ	4年前期

④作業療法学科夜間部

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
【総合臨床実習Ⅱ】 医療提供施設での強化・治療体験	4年前期	身体機能作業療法学	2年前期
		高次脳機能作業療法学	2年前期
		老年期作業療法学	2年後期
		身体機能作業療法学Ⅱ	2年後期
		精神機能作業療法学	2年後期
		日常生活活動学	2年後期
		発達障害作業療法学	2年後期
		身体機能作業療法学Ⅰ演習	3年前期
		身体機能作業療法学Ⅱ演習	3年前期
		精神機能作業療法学演習	3年前期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	校長 佐藤正輝
組織の開催頻度	1年に1回
組織の取り組み内容	・教職員の自己点検に基づく学校評価
	・教員の授業評価の実施
自己点検・評価結果の公表	HPで公表（URL： https://sdc.tsuzuki.ac.jp/ ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	シラバス検討委員会
	委員構成等	佐藤正輝（校長） 園田徳義（事務長） 山内智恵（理学療法学科昼間部責任者） 白田典正（作業療法学科昼間部責任者補佐） 佐々木康大（理学療法学科夜間部責任者） 高尾人史（作業療法学科夜間部責任者） 三浦雄司（教務課）
	改善の仕組みの実際	シラバス作成ガイドラインの検討・作成 シラバス形式のチェック 科目評価に関する検討

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己評価 1-2	・専任教員の人数が適正ではない ⇒ 適正人数配置へ改善予定
自己評価 3-3	・養成所ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない ⇒専属の施設を有しておらず、今後の課題である
自己評価 3-5	・臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である

⇒今後、ハラスメント防止および発生時の体制を整備していく予定

自己評価 4-2

- ・シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない

⇒今後シラバス検討委員会で記載内容の見直し体制を十分に機能させる予定